

はれんこと、いとよしなきわざに侍りと申す、あまたの番匠みなさやうにのみ申ける中に、一人領掌するあり、かゝる屋、日ごろもつくりたる事侍りやととひ給に、さる事は侍らねども、なにもをしへ給はんまゝ、にこそ、つくり心み侍らめと申ければ、その時、まことにそのまゝ、につくらんとにはあらず、たゞ心のほどをしらんためにいひつるなりとて、すなはちかれを大工として、東大寺をば、つくりたてられけるとなん、おほかたよろづにはかりごとかしこき人なりければ、そのころのことわざにて、支度第一俊乗房とぞ人申ける。

〔駿臺雜話三〕天野三郎兵衛 東照宮參河に御座なされし時、御制法を定められ、高力與右衛門清長、本多作左衛門重次、天野三郎兵衛康景を三奉行に仰付らる、其ころ輿人の諺に、佛高力、鬼作左どちへんなし。天野三郎兵衛といひしとぞどちへんなしとは、左右遷就して一決せぬの俗語なり、此諺をもて考るに、高力はたゞ寛仁にして、本多があらきにかまはず、本多はたゞ勇決にして、高力が慈悲にかまはず、天野は高力か本多加裁断をそねむ心なく、たゞ道理次第にして、少しも己をたてぬと見へ候。

〔諺草毛〕諺

もとの木阿彌。

筒井陽舜坊順昭

大和國郡山城 二十八歳にて病死す、此時其子伊

賀守定次

後號順慶

わづかに一歳也、順昭遺言して、三年の間は卒去をかくし置べしとありければ、木

阿彌と云盲人、其形順昭に似たる故、他國より使者來る時は、かの盲人をほのぐらき所におき、順

昭は病中の體にもてなし、相見せしむ、定次三歳の時、始て喪を發す、註こゝに至て、木阿彌なり

し事を諸人しれり、今俗の諺に、もとの木阿彌と云事、是よりおこれり、新考

〔漢語大和故事〕「蟬」ニ懼ズ、古歌ニ、踏アテバ目ク。ラモ。蟬ニラズベキカシラ子バヤスキ和歌

ノ道カナ、畢竟シラ子バ安トイフコトナリ、

〔後撰和歌集十六〕いたく事このむよしを、時の人いふとき、て、

高津内親王